



研究データ利活用協議会（RDUF） 2025年度公開シンポジウム プログラム

Research Data Utilization Forum Symposium 2025 Program

日時 ： 2025年12月12日（金） 13：30～17：05（会場受付13:00～）

開催方法：ハイブリッド開催

現地会場：科学技術振興機構 [東京本部別館](#) 1F ホール

オンライン配信：Zoomビデオウェビナー

時間	内容
13:30～13:35	開会挨拶 南山泰之（東京大学、RDUF企画委員会委員長）
第1部	
13:35～14:20	招待講演（質疑応答含む）※Slidoからの質疑可 「“Connecting Communities and Infrastructure to Advance Open Research on a Global Scale”」 Maria Gould氏（DataCite、Director of Strategic Programs and Partnerships）
（15分間）	休憩
第2部	
14:35～14:45	研究データ利活用協議会の活動紹介＊ RDUF事務局
14:45～15:15	小委員会・部会の活動報告（小委員会：各10分、部会：各5分）※Slidoからの質疑可 ・政府メタデータ共通項目小委員会＊ ・PIDユースケース検討小委員会＊ ・データ共有・公開制度検討部会＊ ・ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会(JDARN)＊
15:15～15:20	質疑応答
（10分間）	休憩
第3部	
15:30～16:00	RDUF会員によるライトニングトーク（各2分） 1. 「研究データの可視化・検索向上を目指したメタデータ変換と機関リポジトリへの登録について」 金田志保（東海国立大学機構） 2. 「大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会の活動の現状と展開」 松原茂樹（名古屋大学） 3. 「『機関リポジトリへの研究データ登録ガイドライン』の紹介」 甲斐尚人（大阪大学）、小林裕太（千葉大学）、石山夕記（一橋大学）、田中幸恵（名古屋大学）、 朝岡誠、鹿沼智美、佐藤知生（国立情報学研究所）、南山泰之（東京大学） 4. 「公的資金研究データリポジトリ（GRANTS Data）」＊ 守屋研二（科学技術振興機構） 5. 「SSJDAにおけるCoreTrustSeal認証取得報告：成果と展望」＊ 胡中孟徳、南山泰之（東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター） 6. 「メタデータマッピング標準化に向けたガイドラインの提案」＊ 叢艶、青木学聡、松原茂樹（名古屋大学） 7. 「RDM知識情報の共有サイトRDMkit-jp」＊ 大波純一（理化学研究所）、南山泰之、塩谷昌之（東京大学）、増井誠生、長岡千香子、古川雅子 （国立情報学研究所） 8. 「データに基づく認知的健康な加齢を促す社会への変革-IDW2025とCODATA総会参加報告」＊ 大武美保子、Alexandra Wolf（理化学研究所） 9. 「日本原子力研究開発機構における研究データ公開に向けた管理体制整備の取組」＊ 稲垣理美（日本原子力研究開発機構） ＊はポスターセッション参加
16:00～16:03	総括 南山泰之（東京大学、RDUF企画委員会委員長） ※オンライン配信終了
16:03～17:03	ポスターセッション ※現地会場のみ
17:03～17:05	閉会挨拶 南山泰之（東京大学、RDUF企画委員会委員長）

■ 招待講演

13：35～14：20（質疑応答含む） ※Slidoからの質疑可

“Connecting Communities and Infrastructure to Advance Open Research on a Global Scale”

講演者

Maria Gould氏（DataCite、Director of Strategic Programs and Partnerships）

概要

The global research enterprise depends on an infrastructure network that makes it possible for knowledge to be shared, discovered, used, and understood. These possibilities can only be fully realized when research infrastructure is open and interoperable, and when research infrastructure is understood in social as well as technical terms.

In this presentation, Maria Gould will reflect on the opportunities and challenges with global research infrastructure by sharing examples from DataCite and the California Digital Library.

■ 小委員会・部会の活動報告

14：45～15：15 ※Slidoからの質疑可

政府メタデータ共通項目小委員会 ポスターセッション参加

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」メタデータ共通項目の精緻化に向けて

住本 研一（科学技術振興機構）

概要

政府メタデータ共通項目小委員会では、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」に示されたメタデータの共通項目をレビューし、FAIR原則を始めとする国際標準に準拠したメタデータの在り方を議論している。本発表では、小委員会における議論の概要を紹介する。

PIDユースケース検討小委員会 ポスターセッション参加

国際的なPIDデータ利活用のユースケース作成

田辺 浩介（物質・材料研究機構）

概要

PIDユースケース検討小委員会では、国際的なPIDデータ利活用の具体的なユースケースづくりを目的として、大学の研究評価における実務を題材に、書誌レコード/著者名/機関名に関する各PIDの付与状況に関する調査、及びメタデータ品質の分析に取り組んでいる。本発表では、小委員会における議論の概要を紹介する。

データ共有・公開制度検討部会 ポスターセッション参加

データ共有・公開制度検討部会活動報告 2025

南山 泰之（東京大学社会科学研究所）

概要

データ共有・公開制度検討部会では、「RDUF研究データライセンス小委員会」による活動の継承と展開、及び研究データ利活用にまつわる法的・制度的課題に関する論点の検討を行っている。本発表では、部会における今年度の議論の概要を紹介する。

ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会 ポスターセッション参加

ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN)推進部会活動報告

八塚 茂

概要

ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN)推進部会は、2017年に「国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築」小委員会として設立して以降、研究データの管理や運営に関わるメンバーが集まり、「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」の策定等を行ってきた。現在では、研究データに関する様々なトピックについて議論や意見交換を行う場となっており、本報告ではその主なものを紹介する。

1 研究データの可視化・検索向上を目指したメタデータ変換と機関リポジトリへの登録について

金田 志保（東海国立大学機構）

概要

当館では、2022年より教員と協働し、宇宙科学分野のメタデータスキーマ「SPASE」を機関リポジトリで採用する「JPCOARスキーマ」にマッピング（変換）し、SPASEを利用する宇宙科学分野のデータベース「IUGONET」の研究データの機関リポジトリへの登録を実施している。2024年度からは、同様のデータを扱う九州大学等への展開を進めるとともに、分野横断的な応用として構造生物学のメタデータスキーマ「PDBML」から「JPCOARスキーマ」へのマッピング（変換）にも取り組んでおり、これらの進捗と概要について報告する。

2 大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会の活動の現状と展開

松原 茂樹（名古屋大学）

概要

大学ICT推進協議会（AXIES）研究データマネジメント部会（RDM部会）では、大学や研究機関における研究データの管理と利活用に関する課題を的確に把握し、その解決に向けた議論の場を提供することを目的として活動しています。多様なステークホルダーからの事例収集と会員間での共有を通じて、研究データの収集・生成・保管・保存・公開・利活用に関するルール策定の指針や、ICT基盤の在り方について提言を行っています。本発表では、AXIES RDM部会の最近の活動状況と今後の展開について紹介します。

3 『機関リポジトリへの研究データ登録ガイドライン』の紹介

甲斐 尚人*（大阪大学）、小林 裕太（千葉大学）、石山 夕記（一橋大学）、田中 幸恵（名古屋大学）、朝岡 誠、鹿沼 智美、佐藤 知生（国立情報学研究所）、南山 泰之（東京大学）

*当日発表者

概要

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）研究データ作業部会では、機関リポジトリにおける研究データ登録の標準的な手順を整理し、登録パターン、受領から公開までのプロセス、公開後の対応を体系的にまとめた『機関リポジトリへの研究データ登録ガイドライン』を作成、2025年9月に公開しました。本発表では、ガイドラインの構成と主要な項目について概要を紹介します。

<https://jpcoar.org/support/repository-abc/>

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000667>

ポスターセッション参加

4 公的資金研究データリポジトリ（GRANTS Data）

守屋 研二（科学技術振興機構）

概要

科学技術振興機構情報基盤事業部では、「公的資金研究データリポジトリ（GRANTS Data）」を構築しています。GRANTS Dataは、公的資金の成果データを保有しているが適切にリポジトリの利用ができない方向けに構築された、無料で利用できるデータリポジトリです。この度、システム構築が完了し、一般公開に向けてデータ登載を開始しましたので、画面や機能等を紹介致します。

ポスターセッション参加

5 SSJDAにおけるCoreTrustSeal認証取得報告：成果と展望

胡中 孟徳、南山 泰之*（東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター）

*当日発表者

概要

東京大学社会科学研究所のSocial Science Japanデータアーカイブ（SSJDA）は、2025年に国際的なデータリポジトリの認証基準であるCoreTrustSeal（CTS）を取得した。本報告では、SSJDAの申請の背景となった社会科学分野の状況と準備過程でどのような取り組みが必要となったかを紹介する。さらに、CTS取得をする意義と、今後の継続的改善のための実務的な課題について述べる。

ポスターセッション参加

6 メタデータマッピング標準化に向けたガイドラインの提案

叢 艶*、青木 学聡、松原 茂樹（名古屋大学）

*当日発表者

概要

メタデータマッピング作業は、異なるシステム間におけるデータの横断的利用や標準化を実現する上で不可欠な工程である。しかし、作業の標準化は、十分に進んでおらず、担当部署内でも作業方法と手順に関する共通認識が乏しい。そのため、メタデータマッピングの作業は担当者ごとの経験や知識に依存し、暗黙知として蓄積される傾向がある。本提案では、作業の効率化とノウハウの継承、さらに部署全体の対応力向上を目的として、メタデータマッピング過程の分析と作業手順の体系的整理を行う。それに基づき、メタデータマッピング標準化に向けた形式知化のためのガイドラインを提案する。

ポスターセッション参加

7 RDM知識情報の共有サイトRDMkit-jp

大波 純一*（理化学研究所）、南山 泰之、塩谷 昌之（東京大学）、増井 誠生、長岡 千香子、古川 雅子（国立情報学研究所）

*当日発表者

概要

研究データ管理（Research Data Management; RDM）は将来のデータ利活用の要となる活動である。この一方、現場の研究者やデータ管理者にはRDM関連の語彙や手順などの知識情報が十分に行き渡っていない。そこで我々は生命科学分野の国際的なプロジェクトであるELIXIR-CONVERGEプロジェクトの作成したサイトを参考に、「RDMkit-jp」を新しく構築した。サイト内にはRDMに関するノウハウ、ツール、事例、ベストプラクティスを掲載している。今後も研究コミュニティからのフィードバックを受け、日本の学術研究が円滑化されるようさらなる拡充を進めていく。

ポスターセッション参加

8 データに基づく認知的健康な加齢を促す社会への変革-IDW2025とCODATA総会参加報告

大武 美保子*、Alexandra Wolf（理化学研究所）

*当日発表者

概要

報告者は、CODATAのTask Groupとして、Data driven social change towards society promoting cognitively healthy aging（データに基づく認知的健康な加齢を促す社会への変革）を推進している。以下の3点について報告する。

- 1)2025年10月13日から16日まで、オーストラリア・ブリスベンで開催された、International Data Week (IDW2025)において、企画した関連セッション。
- 2)日本代表として参加したCODATA総会。
- 3)オープンサイエンスに興味がある日本の関係者をネットワークする目的で開催した、IDW2025ならびに同時期に東京で開催された国連の国際会議のブリーフィングイベント。

ポスターセッション参加

9 日本原子力研究開発機構における研究データ公開に向けた管理体制整備の取組

稲垣 理美（日本原子力研究開発機構）

概要

日本原子力研究開発機構（JAEA）では、研究データの適正な管理と公開促進に向け、三つの取組を進めている。第一に、JAEAにおける経済安全保障の取組などとの整合を図るため、研究データの取扱いに関する基本方針及び内部規程の改正を進めている。第二に、機関として管理すべき研究データを保管するための研究データ管理基盤の構築である。第三に、研究者等が研究データ管理・公開に必要な手続きを理解できるよう、「研究データ公開手続きガイド」の整備を進めている。これらについて現状の取組を報告する。